



ここでは、今知っておきたい健康問題に関する
トレンドワードをお伝えします。

監修 山梨大学医学部皮膚科学講座
教授 川村 龍吉

LIVE ニュースワード

带状疱疹

近年発症者が増加中!?

带状疱疹とは?

水ぼうそうと同じ「水痘・带状疱疹ウイルス」によって起こる病気です。日本の成人の約9割がこのウイルスに感染しており、特に50歳以上で発症率が上昇します。近年では20～40歳代での増加も見られ、世代を問わず注意が必要です。



带状疱疹の原因

子どもの頃に水ぼうそうにかかったことがある人は、水ぼうそうが治った後もウイルスが体内に潜伏し続けます。普段は免疫力によりウイルスの活動は抑えられていますが、加齢や疲労などで免疫機能が低下すると、再びウイルスが活性化し、带状疱疹として発症します。

带状疱疹発症の仕組み

こんな症状が出たら すぐ受診!

発症直後は、虫刺されや湿布によるかぶれなどと勘違いし、初期症状に気づかない場合もあるようです。带状疱疹にはどのような症状が現れるのか理解しておきましょう。



带状疱疹の症状

大半は体のどちらか片側にみられます。はじめは皮膚にピリピリとした痛みやしびれを感じ、数日ほどで赤い斑点状の発疹や水ぶくれになり、带状に広がります。強い痛みを感じる場合もあります。

神経の損傷で後遺症も
皮膚の症状が治った後も、3ヶ月以上も痛みが続く「带状疱疹後神経痛」に移行することがあるので、早い治療でウイルスを抑えることが大切です。

発症しやすい体の部位

- 顔**: 目の周りは視力低下を引き起こす場合も
- 胸・腹～背中**: 背中では自分では皮膚の変化が確認しづらい
- 下半身**: 片側の足やおしり

では、どのように予防・改善すればよいのでしょうか。

治療は早期受診がカギ

重症化や後遺症を防ぐためには、できるだけ早くウイルスの増殖や痛みを抑えることが重要です。带状疱疹かもしれないと思ったら、すぐに皮膚科や内科を受診してください。

発症から3日以内の治療が効果的なので、早期に受診を

50歳以上はワクチン接種

50歳以上の方は予防接種を受けることをおすすめします。発症を完全に防ぐものではありませんが、重症化を防ぐことができます。
※65歳以上には定期接種が実施されています。

費用の助成を行っている自治体もあるので、事前に確認を

日頃の体調管理に気をつける

予防には、ストレスや疲れをためないなど、日頃の健康管理で免疫機能を落とさないことが大切です。バランスのよい食事や十分な睡眠、適度な運動を心がけましょう。

ウイルスを再び目覚めさせないよう、規則正しい生活を